

I 教育目標

○一人一人の生徒が人権尊重の精神に基づき、豊かな未来を創造し、平和な国際社会の形成者となるために、次の人間像を目指し、教育活動を行う。
 ①健康でたくましい人 ②進んで学ぶ人 ③礼儀正しい人 ④責任を果たす人 ⑤思いやりのある人

II 経営方針

<p>目指す学校像</p>	<p>○個の希望を将来に結びつける「明日も学校に行くのが楽しみ」と思える学校 ○教育活動を通して、社会のルールを守る態度を培い、望ましい集団を形成し、生徒の個性を磨き、生かすことで自己の将来の希望を叶えられるような力を付ける学校</p>
<p>目指す生徒像</p>	<p>○自己肯定感をもち自ら学びに向かう力を身に付け心身ともに健康でたくましい生徒 ○主体的、対話的で深い学びを大切にし、他の話を聞き入れ、自己表現力のある生徒 ○自らを律し、他者に接する思いやりと奉仕の精神をもち、困難を乗り越える生徒</p>
<p>目指す教師像</p>	<p>○生徒に寄り添い慈しみ、誠実に接する。(人権尊重の精神・法令遵守) ○目標(理想)をもち、計画性をもって具現化に努力する。(計画性・実践力) ○学校経営方針の下、組織の一員として協働(共通行動)する。(協力性・信頼性)</p>
<p>経営理念</p>	<p>◎学校は組織として教員の英知を結集し、生徒一人一人の将来への道を開くための活動の場である。生徒が多様化し変化する社会に適応しつつ、自己実現の意欲と能力をもって生きる資質を組織的、計画的に育む、指導と支援の義務教育最後の場が中学校である。</p> <p>○ 令和8年度は、開校50周年記念の年として「Let's Live Strong Together!」【ともにたくましく生きる!】をテーマとし、PDCAサイクル(計画、実施、評価、改善)を確立し、生徒も教師もともに輝き笑顔になるよう、寄り添いていねいな教育活動に取り組む。</p> <p>○「自ら学びに向かう力と人間性が未来を開く」 学校における教科学習・特別活動・行事等全ての活動は変化する社会の中に適応するための「学びに向かう力」を身に付ける機会である。基礎基本となる知識を身に付けさせ、それを元にその時必要なことを調べ・まとめ、課題の解決に活用し未来に生かす姿勢と意欲をもたせる成功体験の場が学校である。</p> <p>○「個別最適な学び」「多様性を認める協働的な学び」により自己肯定感を高める。 得意不得意に始まり、自我の目覚めや個性化、コミュニケーション力の差や障害等による、学校における多様な仲間存在は社会を形成する人々の様々な状況の縮図である。多様性を認め、互いに補完し合いながら生きる協働社会の形成者としての資質を育て、生徒一人一人の自己肯定感を高め、他者に対する思いやりの心の育成。そしてICT推進校として学んだ経験を活かし、さらに「ICTを工夫した活用」による授業改善の推進。</p> <p>○「教師は理想の大人像であれ」 教師は組織の一員として全力で職務遂行に当たると同時に、生徒にとって最も身近な理想の大人像として、社会の中で個性を生かし、夢や希望をもって生きる信頼と尊敬を得られる存在でなくてはならない。</p> <p>○「安心できる学校、信頼できる教師」(不登校生徒を増やさない) 教師は生徒が安心して生活できる環境を整備するために、常に施設の安全性や生徒の人間関係の状況把握に努め、組織的に共通理解・共通行動し、常に研鑽に励む。</p> <p>○今年度、本校は「開校50周年」を迎えるにあたり、生徒には辰巳中学校の半世紀(50年)の歴史と伝統を尊重し、あらたな明日への力強い創造の精神を育む一歩となる式典を開催する。</p>

Ⅲ 経営目標

重点領域 1		基礎学力の向上の定着（個別最適な学び・協働的な学びの充実）	
中期経営目標	生徒が自己成長を自覚し、常に目標に向け意欲的に学習に取り組めるようにする。第3期教育プラン・江東のテーマにならない主体的・対話的で深い学びのために各教科でカリキュラムマネジメントによる教科横断的な授業を取り入れ、生徒の深い学びにつなげていく。ICTを利用した授業改善に取り組み、「個別最適な学び」と「協働的な学び」としてスモールステップの課題を設定し、指導と評価とフォローで、褒めるチャンスをつくり個々に自信をもたせ成長を促す。		
短期経営目標	学習内容の基礎基本の確実な定着を図る。 ○ ICTを利用した学習を取り組み、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させる。とくにカリキュラムマネジメントによる各教科 横断的な授業改善を図る。 ○ デジタル教科書に慣れ親しみ、コミュニケーション学習の定着を図る。		
項目	努力指標（教師側）	成果指標（こども側）	
1	学び方スタンダードの姿勢・話し方・聞き方・家庭学習の指導を各教科でしっかりと意識づけし、生徒を前向きに学習に取り組ませる。	学びスタンダードの結果を区の平均とする（ <u>昨年度2年生の経年変化での3教科で区の平均以上</u> ）。	
2	定期考査・単元テスト・課題提出の結果を分析し、後のフォローを確実にし、全ての生徒に自己の成長を感じさせる。	生徒アンケート数学・英語において、教科の平均で「授業の内容はよく理解しているか」について肯定的回答を各85%以上にする。	
3	ICTによる学習活動も含めた、自分の考えを发表或し、他者の意見を聞いたり、言語活動を行う。（スピークアッププログラム）	生徒アンケート英語において「意欲的に英語でコミュニケーションをとろうとしているか」について肯定的回答90%以上にする。（昨年度86.7%）	

重点領域 2		基本的な生活習慣の確立と体力向上	
中期経営目標	あいさつ、時間を守る、協力して主体的に学校生活をおくる。教員は学び方スタンダードを意識し、組織的に指導する。不登校生徒を増やさない（対策を講じ、減少傾向にする）。		
短期経営目標	○ 誰にでも進んであいさつができる生徒 ○ 良い姿勢で授業を受け、授業に集中できるようにする。 ○ 主体的に運動に取り組む意識を高める。		
項目	努力指標（教師側）	成果指標（こども側）	
1	授業等の始めと終わりのあいさつの徹底。生徒の前に立って話す時など、始めのあいさつを通して模範を示し、集中させ話を聞く態度を身につけさせる。校内外等でのあいさつの励行を指導する。	あいさつについてのアンケートで生徒の自己評価を「よくできる」の評価だけで80%以上にする。（前年度は67%「できる」の評価を含めると95%）	
2	椅子の座り方、背筋を伸ばす姿勢を指導し、常にだらけた態度にならないように指導する。定期的に授業の始まりにキャットレッチの習慣付けるよう背筋を伸ばすストレッチを取り入れる。	生徒アンケートで「姿勢」についての自己評価で「よくできる」「できる」のプラスな評価を合計80%以上にする。（前年度72%）	
3	保体の授業や部活動等で今まで自らが、できなかった運動の技術が、少しでもできるようになったり、記録が伸びたりすることを体感させる。	生徒アンケートで「保体の授業は好きですか」について肯定的な回答する生徒を90%以上にする（前年度88%）	

重点領域 3		人権尊重の意識を高め、他者を思いやる心と自己肯定感の育成
中期経営目標	自己肯定感を高め、他者を思いやる心を育む 心の教育活動（不登校支援等）や（いじめ防止活動）を継続して取り組む	
短期経営目標	○各教科の学習（普遍的な視点）、道徳、総合的な学習の時間等、教育活動全体を通して「自己肯定感」「他者への思いやる心」「いじめや差別の防止の意識」「多様性を尊重する心」（個別的な視点）等の育成を図り、人権尊重教育の推進と充実をしていく。 ○登校支援教室（ひだまり教室）の利用し、不登校生徒の生活改善	
項目	努力指標（教師側）	成果指標（こども側）
1	個性の尊重を指導し、考え方の違いや個人的不満をいじめに発展させない。	毎月の校内生活アンケートで、発生から早期に発見し解決、同じ事案の再発をなくす。
2	学年毎に所属教員と管理職で内容項目を分担し、担任以外の教員も含めローテーション道徳を実施し、22項目（35時間）を確実に指導し、指導力の向上を図る。	全教員（管理職含）の授業を通して、アンケートで「道徳の授業を通して学ぶことが多かった」という項目にプラスな評価を90%以上にする。 （前年度84%）
3	不登校対応を適切に行う。不登校傾向者の出席率改善のため学校・保護者・外部機関との連携強化。不登校対応を適切に行う。不登校傾向者の出席率改善教室（ひだまり教室）の活用。	年度末には不登校者を減少させる、さらに不登校傾向の改善策を図る。授業参加率 目標80% （昨年度 不登校傾向の生徒の授業参加率 78%）

重点領域 4		小中連携を充実させ、児童と生徒の交流によるボランティア精神の育成
中期経営目標	開校 50 周年を機に生徒が地域社会の担い手としての自覚をもち、主体的に地域に貢献する。教職員は保護者・地域との連携に進んで取り組み、生徒の健全育成に努める。	
短期経営目標	○生徒・教職員ともに地域の小学校への交流活動等に取り組む。 教員 3校連絡会（年3回） 連携教育授業参観（年2回） 生徒 小中合同地域清掃（年1回）6年生の中学授業体験授業（年1回） 小学校2校の1年生に読み聞かせ（各小学校年2回） ○開校 50 周年を記念し地域と PTA と協働し生徒会が記念行事を開催予定。	
項目	努力指標（教師側）	成果指標（こども側）
1	近隣2つの小学校と、三校連絡会（管理職 主幹 教諭 養護教諭 各校5名）を年3回行い地域小中学校の一体感（連携）を図る。	近隣2校の小学校との親交を図り、児童生徒のよりよい指導や円滑な進学ができるようにする。 （中1ギャップ解消）
2	地域ボランティア（清掃活動等）の機会をつくり小中合同の地域活動を行う。	「奉仕活動のやりがい」について、プラスの意識を80%以上とする。（昨年67%）
3	生徒会が中心となり地域と PTA 協働し行事を企画支援する。	中学生が地域に少しでも地域貢献できる交流の機会をつくる。